別添様式１

年　月　日

国産粗飼料の利用拡大及び生産コストを削減させるための酪農生産改善計画

（令和４年度第　期分）

第１　取組者の概要

|  |  |
| --- | --- |
| 酪農経営体名（法人の場合は法人名を記載） |  |
| 代表者の役職・氏名（上記と同様の場合は省略） |  |
| 酪農経営体が所在する住所 | 〒 |

第２　国産粗飼料の利用拡大及び生産コストを削減させるための取組確認

本事業に着手する取組について、別記の取組から３つ以上を選択。

このうち、１つ以上は【●】に取り組むものとする。

１　令和４年度中から令和５年度までに取り組む場合及び既存の取組を令和５年度まで継続する場合（令和４年度第Ⅰ期対策）は、左欄の□にレを記入すること。なお、その他の具体的な取組を選択する場合、左欄の□にレを記入した上で、具体的な内容を括弧内に記入すること。

２　令和５年度から令和６年度までに取り組む場合及び既存の取組を令和６年度まで継続する場合（令和４年度第Ⅱ期対策）は、左欄の□にレを記入すること。なお、その他の具体的な取組を選択する場合、左欄の□にレを記入した上で、具体的な内容を括弧内に記入すること。

３　令和４年度第Ⅱ期対策において、令和４年度第Ⅰ期対策と変更がない場合は、別記⑮の□にレを記入すること。

別記　国産粗飼料の利用拡大及び生産コストを削減させるための取組確認表

□　①飼料成分分析に基づく飼料設計の改善（飼料自給率の向上を考慮すること。）【●】

* 輸入乾牧草の一部を国産粗飼料に置き換え。
* 輸入とうもろこしの一部を国産（子実・イアコーン）に置き換え。
* 輸入原料（上記以外）の一部を国産原料に置き換え。
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ②国産飼料（エコフィードを含む。）の給与割合の増加【●】
* 国産牧草（乾草・サイレージ）の給与割合を増やす。
* 国産とうもろこし（青刈り・子実・イアコーン）の給与割合を増やす。
* エコフィード（豆腐粕・醤油粕等）の割合を増やす。
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ③国産濃厚・粗飼料の生産・流通拡大（コントラクター活用等によるものを含む。）【●】
* 国産粗飼料の作付面積を拡げる。
* 国産濃厚飼料の作付面積を拡げる。
* 国産飼料の販売・流通量を増やす。
* TMRの利用量を増やす。
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ④国産高栄養素粗飼料（青刈りとうもろこし、アルファルファ等）の利用による配合飼料の使用量の低減【●】
* 青刈りとうもろこしの使用量を増やし、配合飼料の使用量を減らす。
* 国産アルファルファの使用量を増やし、配合飼料の使用量を減らす。
* 国産チモシーの使用量を増やし、配合飼料の使用量を減らす。
* その他国産原料（上記以外）の使用量を増やし、配合飼料を減らす。
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ⑤疾病・事故率などの低減
* 牛床マットやカウブラシ、分娩監視装置等飼養管理機器・資材の使用
* 疾病・事故率低減のための牛の削蹄の実施
* 疾病・事故率低減のための獣医師の指導等による定期的な分娩監視
* 疾病の低減のため、ワクチンの接種
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ⑥暑熱・寒冷対策による生産性の改善
* 暑熱対策のために、牛床内における噴霧器、換気ファン等の使用
* 寒冷対策のために、牛衣（カーフジャケット）等を着用
* 暑熱・寒冷対策のために、外壁・屋根材に耐熱性（保温性）素材を使用
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ⑦副産物収入（堆肥販売、和牛受精卵の活用等）の増加による生産コストの削減
* 堆肥販売の増加による収入の増加により、生産費割合を圧縮する。
* 和牛精液・和牛受精卵の活用による収入の増加により、生産費割合を圧縮する。
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ⑧牛群検定を活用した生産性の向上
* ⑨分娩間隔の短縮
* 発情発見機を活用した発情の見逃し防止による分娩間隔の短縮
* 早期離乳の実施による、分娩間隔の短縮
* その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
* ⑩エサ寄せロボットの活用
* ⑪自動給餌機の活用
* ⑫搾乳ロボットの活用（ただし、飼料給餌機能付きのものに限る。）
* ⑬分割給餌
* ⑭リキッドフィーディングの活用

□　⑮**令和４年度第Ⅰ期対策と同様の取組を令和６年度まで実施する。　※**

　※　⑮は令和４年度第Ⅱ期対策において、令和４年度第Ⅰ期対策と変更がない場合

別添様式２

年　月　日

酪農生産改善計画に基づく取組状況報告（令和４年度第　期分）

第１　取組者の概要

|  |  |
| --- | --- |
| 酪農経営体名（法人の場合は法人名を記載） |  |
| 代表者の役職・氏名（上記と同様の場合は省略） |  |
| 酪農経営体が所在する住所 | 〒 |

第２　国産粗飼料の利用拡大及び生産コストを削減させるための実績確認表

・　事業開始時から取組期間において取り組んだ項目について、右欄の□にレを記入すること。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | |  |
| （１） | 飼料成分分析に基づく飼料設計の改善（飼料自給率の向上を考慮すること。）【●】 | □ |
| （２） | 国産飼料（エコフィード含む。）の給与割合の増加【●】 | □ |
| （３） | （コントラクター活用等による）国産濃厚・粗飼料の生産・流通拡大【●】 | □ |
| （４） | 国産高栄養粗飼料（青刈りとうもろこし、アルファルファ等）の利用による配合飼料の使用量の低減【●】 | □ |
| （５） | 疾病・事故率などの低減 | □ |
| （６） | 暑熱・寒冷対策による生産性の改善 | □ |
| （７） | 副産物収入（堆肥販売、和牛受精卵の活用等）の増加による生産コストの削減 | □ |
| （８） | 牛群検定を活用した生産性の向上 | □ |
| （９） | 分娩間隔の短縮 | □ |
| （10） | エサ寄せロボットの活用 | □ |
| （11） | 自動給餌機の活用 | □ |
| （12） | 搾乳ロボットの活用（ただし、飼料給餌機能付きのものに限る。） | □ |
| （13） | 分割給餌 | □ |
| （14） | リキッドフィーディングの活用 | □ |
| （15） | 令和４年度第Ⅰ期対策と同様の取組を継続　※ | □ |

※　（15）は令和４年度第Ⅱ期対策において、令和４年度第Ⅰ期対策と変更がない場合

第３　取組の実施内容、実施したことを証する資料

[記載例]

取組その１：暑熱・寒冷対策による生産性の改善

取組の内容：牛舎に○○を設置することにより暑熱による生産性低下の改善を図るとともに、○○を設置することで寒冷による生産性低下の改善を図った。

証する資料：

・写真（牛舎内の設備及びその周辺）

・設備の納品書、領収書　など

・

取組その１：

取組の内容：

証する資料：

・

・

・

取組その２：

取組の内容：

証する資料：

・

・

・

取組その２：

取組の内容：

証する資料：

・

・

・

取組その１：

取組の内容：

証する資料：

・

・

・

取組その３：

取組の内容：

証する資料：

・

・

・